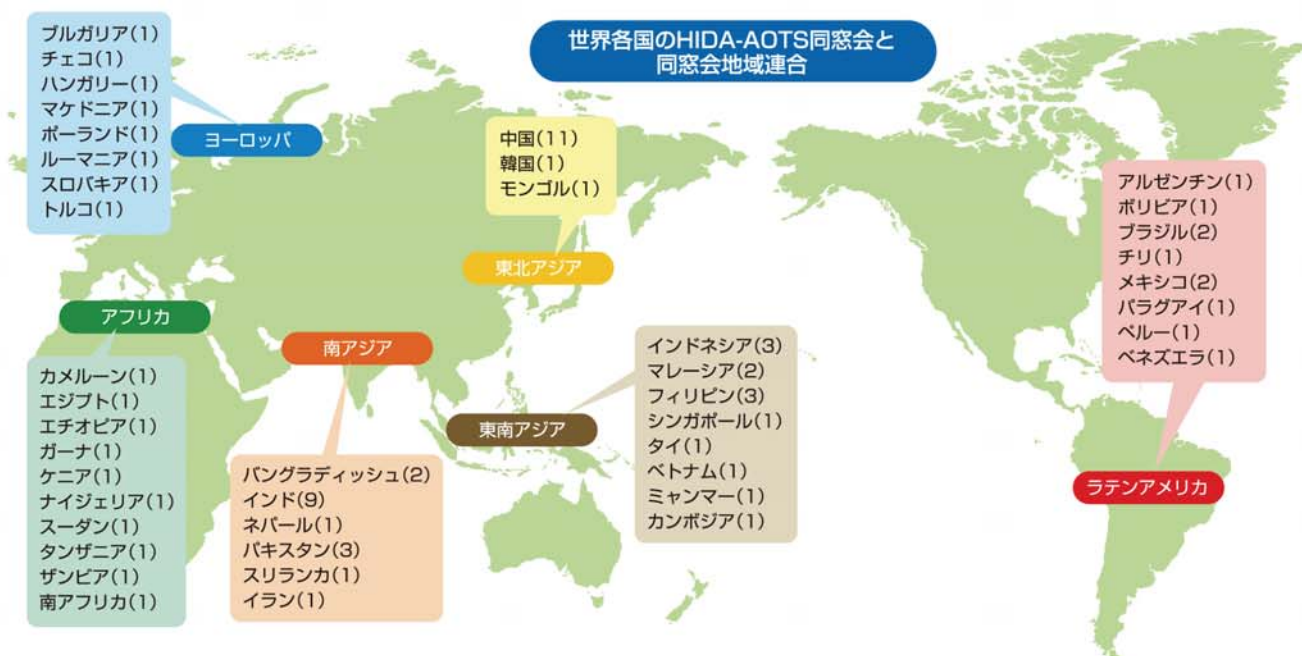


その他の活動報告

HIDA-AOTS同窓会

HIDA-AOTS同窓会は、日本で行われた研修の参加者が、帰国後に「HIDA-AOTS研修」という共通体験をもとに結束し、世界各地で自主的に組織しているNGOです。HIDA-AOTS同窓会は現在世界43カ国71カ所に結成されており、自国の経済産業の発展と地域社会への貢献とともに、日本や諸外国との友好関係の増進に努めています。また、同窓会は世界6地域でそれぞれ同窓会地域連合を結成し、定期的に会合を持つなど、地域間協力活動も盛んに行っています。HIDAが日本最大の民間技術協力機関として、現地のニーズを正確に把握し、事業の「質」を向上していく上で、同窓会は重要なパートナーです。



巡回セミナー

HIDAは、同窓会との協力事業のひとつとして、HIDAと同窓会が費用を負担し合い、同窓会が主催するセミナーに日本人講師を派遣する「巡回セミナー」を行っています。2013年度は、11月に開催されたラテン・アメリカAOTS同窓会地域連合会議に併せてメキシコとブラジルにて品質経営や品質問題解決をテーマとしたセミナーを行いました。また、ミャンマーにおいて2012年度のHIDA研修参加者のフォローアップを兼ねて、問題解決と企業体質強化をテーマとしたセミナーを実施しました。こうした活動は、同窓会の現地での認知度を高めるとともに、同窓会自体の活動の活性化につながっています。



メキシコでの巡回セミナー

WNFプログラム

WNF(World Network of Friendship)プログラムは、HIDA-AOTS同窓会が行う、開発途上国の自助努力と相互協力による南南協力活動です。一般からの寄付を財源としたWNF基金によって同窓会間の研修生相互交換などを行い、自立的な技術協力活動を行っています。WNFは技術の移転に留まらず、文化、社会、経済、環境などの分野での人的交流活動を通じて、世界の人々が相互理解を深めるとともに友情を育み、平和で豊かな国際社会を構築することに貢献しています。2013年度は、計8プログラムが実施され、HIDAは同窓会の委任を受け、WNF基金の管理とWNFプログラムの年間実施計画立案、および運営管理に協力しました。



WNFのロゴマーク

研修センターの運営



HIDAの研修センターは、日本でされる研修の参加者が講義を受ける学習の場でもあり、生活をする宿泊施設でもあります。研修センターでは、研修を円滑に行うため、教室などの設備や研修のための備品の維持管理を行い、参加者が研修に専念するための環境を作り出すとともに、参加者同士の交流や日本人との交流を図るための国際交流の機会を提供しています。2013年度は、東京、関西、中部(2014年3月に閉館)の3つの研修センターの管理運営を行い、あわせて3,500名を超える研修参加者が滞りました。

研修参加者にとっての“もうひとつの我が家”

母国を離れ、慣れない土地で研修に参加する研修参加者にとって、宗教や食事、生活習慣の違いなどによる負担を軽減し、彼らが快適に過ごせる場所であるよう、「Home Away From Home(もうひとつの我が家)」を目指したセンター運営を行っています。例えば、食事面では、ベジタリアンやイスラム教徒にも配慮した食事メニューを提供し、世界各国から来る研修生の多様なニーズに対応しています。

設立当初から続く研修参加者への温かい気遣いと細やかな配慮は、「共に生き、共に成長する」HIDAのミッションを達成するための大変重要な要素であり、研修プログラムのみならず、研修センター等での彼らの日本での生活を含めた、来日してから帰国するまでの「日本での滞在」を全面的に支援し、結果として、世界各国における親日家、知日家の育成に大きく貢献しています。



世界各地のメニューを用意する食堂

研修参加者の福利厚生行事



浴衣姿で盆踊りを楽しむ参加者

さまざまな国籍の研修参加者が生活する研修センターは、貴重な国際交流の場であり、日々彼らは交流を深めています。研修センターでは研修参加者のための福利厚生行事を数多く行っており、中でも年末年始の餅つきや初詣、盆踊り、節句・節分などの季節に関するさまざまな行事を通じて、日本の文化や伝統に対して理解を深める機会を提供しています。

2013年度の特徴的な取組みとしては、東京研修センターにおいて、落語家による英語落語公演を行い、多くの研修参加者が日本の伝統芸能を身近に感じる大変貴重な機会となりました。



餅つき行事の様子



英語落語公演の様子

地域社会との異文化交流

研修センターでは、研修参加者の福利厚生行事を地域の町内会やボランティアの方々と共同で実施するなど、地域社会との交流を盛んに行っています。2013年秋には、フィリピンから来日し、日本での就労に向けて研修に参加している介護福祉士候補者81名と、地域の小学校との交流会を複数回にわたって実施し、研修参加者に日本の教育事情を理解してもらうのみならず、日本の子どもたちにとって、海外に対する興味や国際的な視野をもってもらうことで国際理解を促進する貴重な機会となりました。